

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表①

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：環境教育、環境講座開催事業] [目標値：年9回開催]

○小学校高学年生を対象とした環境出前講座の実施

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を実現するために実施する事業です。具体的には市内小学校高学年生を対象とした環境出前講座を実施します。家庭でできる地球温暖化対策やごみ減量化対策などをわかりやすく説明し、環境問題への理解を深めてもらいます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	下半期の事業実施に向けて、市内全8小学校との開催日時の日程調整を行った。また児童に環境問題に対する理解を深めてもらい、興味を持ってもらえるよう、資料等を見直した。また鳥栖まちづくり推進センターから依頼を受け、同地区の児童を対象に水生生物調査を環境講座として実施した。
	自己評価	各小学校との日程調整や事前打ち合わせが円滑にでき、出前講座の講座内容も一部見直しを行い、より充実した内容のものができる。
	下半期への対応	10月から12月までにかけて、市内8小学校の4、5年児童802人に対して、出前講座を実施し、地球温暖化の問題や、エネルギーの大切さ、ごみの減量化を写真や図表など取り入れ、わかりやすく説明し、児童らの環境問題に対する関心を高めます。
下半期	取組実績	10月3日から12月5日にかけて市内8小学校の4、5年生802人を対象にごみ減量化の中でも食品ロスを中心に重点的に取り上げ、出前講座を実施した。
	自己評価	プロジェクターを使った説明でも、イラストや写真をふんだんに取り入れたわかりやすい内容とし、環境問題に対する児童の関心を高めた。
	目標値の達成状況	市内全小学校で開催し、目標値が達成できた。
	次年度への対応	環境教育の一環として、理解しやすいよう工夫を凝らし、内容の充実を図りながら、事業を継続していく。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

今後も積極的な取組をお願いしたい。

下半期

これからも子供や市民がわかりやすいものを資料として使って頂きたい。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表②

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：環境美化啓発事業] [目標値：参加人数 1,800 人]

○環境美化啓発事業の実施

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を実現するために実施する事業です。具体的には、市民や市内の事業所からの参加により、河川清掃や道路のごみ拾いといった清掃ボランティア事業を通じて、環境美化の啓発を図ります。

時期	項目	内 容					
上半期	取組実績	毎年5月に轟木川清掃活動を行っていたが、今年は場所を沼川に、実施時期を10月19日に変更して実施する予定で関係機関との協議等準備を進めた。また6月の県内一斉ふるさと美化活動の一環として「市制60周年記念スポーツごみ拾い大会 in 鳥栖」を同月7日に開催した。スポーツごみ拾い大会には27組122人が参加、160kgのごみを回収した。 【環境美化啓発事業への参加者の推移】					
			H22	H23	H24	H25	H26
		轟木川清掃	228人	245人	291人	268人	沼川で10月実施予定
		県内一斉ふるさと美化活動	558人	雨天中止	284人	246人	122人
		捨てちゃイ缶バイ作戦	404人	546人	270人	236人	1月実施予定
	合計	1,555人	1,083人	1,040人	750人	—	
	自己評価	市制60周年記念事業として実施したスポーツごみ拾い大会は、県内初の取り組みということで新聞やテレビで大きく報じられるなど、環境美化に対する市民への啓発が図られた。					
	下半期への対応	市民及び市内事業所に参加を呼びかけ、参加人数の目標達成に努めるとともに、継続して環境美化の啓発活動を行う。					
下半期	取組実績	初めての取組として実施した沼川河川清掃に近隣住民や事業所などから164人が参加、760kgのごみを回収。捨てちゃイ缶バイ作戦は244人が参加し、市役所を中心に50kgのごみを回収した。					
	自己評価	60周年記念事業として取り組んだスポーツごみ拾い大会や、沼川河川清掃など初めての取り組むことができ、環境美化啓発につながった。					
	目標値の達成状況	参加人数の合計は530人と目標値を大幅に下回る結果となった。					
	次年度への対応	市全体としての環境意識の向上が図られるよう、各地区のまちづくり推進協議会で取り組んでいただいている地域の環境美化活動など市主催以外の活動への支援や連携を図っていきたい。					

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

新たな取組は、新規の人達に環境について知ってもらう良い機会になったと思います。

下半期

参加人数は目標に達しなかったが、地道な活動が将来を明るくすると思います。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表③

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：水生生物調査事業] [目標値：参加組数29組]

○基山町との連携による水生生物調査の実施

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を実現するために実施する事業です。具体的には、小学校高学年生とその保護者を対象に河川に住む生物を採取し、河川のきれいさを調査します。

時期	項目	内 容														
上半期	取組実績	<p>基山町との連携事業として水生生物調査事業を鳥栖、基山の両市町で実施。8月2日の基山会場には18組40人が参加水生生物の採取から分類、発表まで行った。同16日予定の鳥栖会場(24組参加予定)は悪天候により中止した。</p> <p>【参加組数の推移(H27は目標値)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25組</td> <td>35組</td> <td>11組</td> <td>26組</td> <td>31組</td> <td>18組</td> <td>(30組)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H23とH26の鳥栖会場は雨天のため中止</p>	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	25組	35組	11組	26組	31組	18組	(30組)
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27									
	25組	35組	11組	26組	31組	18組	(30組)									
自己評価	<p>基山町の担当部局との協力体制も確立され、募集から準備、本番までスムーズにできた。また親子で河川愛護など身近な自然環境問題を考えるきっかけづくりになった。</p>															
下半期への対応	<p>多くの参加申し込みがあっていた鳥栖会場が中止になったことから、日程の見直しによる予備日設定の可能性など来年度の実施に向けた検討を行う。</p>															
下半期	取組実績	<p>基山会場の実松川で実施した調査には、鳥栖市から12組30人の親子が参加した。</p>														
	自己評価	<p>基山町との連携事業としてはスムーズな運営ができた。また親子で自然環境を考える機会を提供できた。</p>														
	目標値の達成状況	<p>天候不良で中止となり、目標値の達成はできなかった。</p>														
	次年度への対応	<p>夏休み期間中の親子行事として一定定着しており、荒天時の予備日の設定など他の夏休み期間に行われる市内行事等も考慮し、可能性について検討する。</p>														

所管部長(リープロ担当部長)の指示

上半期

基山町との連携事業を今後も継続して頂きたい。

下半期

参加された人に今後の取組についてアンケート形式での調査も必要と考えます。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表④

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：エコライフの推奨事業] [目標値：市報掲載等 12回]

○エコライフの推奨事業

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するために地球温暖化対策を進めるものです。具体的には、市報やホームページ等を通じて、身近にすぐできるエコ行動の紹介をします。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	市報紙面上に“とっちゃんのエコライフのススメ”のコーナーを設け、毎月、家庭でできるエコ行動を紹介したほか、本年度から新たに「環境かわら版」のコーナーを設け、2か月に1度のペースで、ごみの減量化に関する情報の掲載を始めた。
	自己評価	「環境かわら版」のコーナーでごみや資源物の収集実績の速報値など数字で紹介することで、よりごみ減量化、地球温暖化対策に対する啓発が図られた。
	下半期への対応	継続して事業を進めていくとともに、下半期は、ごみ処理にかかる費用や集められたごみや資源物がどう処理されているのか等、さらに内容の充実を図り、エコ行動の実践に結びつけられるよう啓発に努める。
下半期	取組実績	毎号市報へ「とっちゃんのエコライフのススメ」や「ごみ減量速報」を掲載したほか、2か月に1回、「環境かわら版」を掲載し、省エネやごみ減量化等の啓発を図った。
	自己評価	私たちが出したごみがどうなっているかを知ってもらうためのごみ処理施設見学会を行うなど、エコライフにつながる取り組みができた。
	目標値の達成状況	市報へ毎号掲載し、目標値の達成はできた。
	次年度への対応	市報の紙面の問題もあるが、市民の皆さんが興味を持って、実践できるよう、内容を充実していく。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

エコ活動紹介を継続して頂きたい。

下半期

今後もゴミ処理をはじめとする施設見学会を行って頂きたい。

## 環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表⑤

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要〔事業名：環境マネジメントシステム普及事業〕〔目標値：年2回開催〕

○環境マネジメントシステム普及事業

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するために地球温暖化対策を進めるものです。具体的には環境省が普及を進めるエコアクション21の普及啓発及び鳥栖市エコ・ショップ及びエコ・オフィス推奨制度普及のための事業者向け説明会を開催します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	佐賀県と共催で7月16日、エコアクション21（以下：EA21）説明会及び鳥栖市エコ・ショップ及びエコ・オフィス推奨制度説明会を開催し、18事業所が出席。説明会開催後、9月末までに申請があった4事業所を新たにエコ・オフィスとして認定した。
	自己評価	EA21及び本市独自のエコ・ショップ、エコ・オフィス推奨制度説明会への参加企業は昨年度実績同数にとどまったが、エコ・オフィス申請が増加しており、事業所における地球温暖化や省資源、廃棄物削減に対する取り組みが進んだと考える。
	下半期への対応	説明会は終了したが、1社でも多くの事業所が環境への関心を高め、実践に結びつくよう、周知を図る。費用負担がなく比較的取り組みやすいエコ・ショップ及びエコ・オフィスの認定事業所を増やす。
下半期	取組実績	事業所へのPRを図り、新規のエコアクション21取得事業所が1件（㈱イマムラ）、本年度の新規でのエコ・オフィス認定件数が5件あり、全部で25事業所となった。
	自己評価	新規での取得が増加し、環境に対する市内事業所の取り組みが進んだ。
	目標値の達成状況	エコアクション21説明会は1回開催し、目標値の達成はできなかったが、エコ・ショップ及びエコ・オフィス推奨制度に関する説明会を同時開催した。
	次年度への対応	事業所におけるごみ減量化への取り組み強化のために引き続き説明会のほか、事業所へのPRを図っていく。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

今後も取組をお願いします。

下半期

引き続きごみ減量化の取り組みを各方面に働きかけて頂きたい。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表⑥

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：新エネルギーの普及啓発事業] [目標値：実施検討]

○再生可能な新エネルギーの普及啓発

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するために地球温暖化対策を進めるものです。具体的には、鳥栖市にふさわしい再生可能なクリーンエネルギーの普及啓発の検討を行います。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	全国の再生可能エネルギーの普及の取り組みや、太陽光発電だけでなく、さまざまな再生可能エネルギー導入の可能性について、インターネット等を利用して情報の収集に取り組んだ。
	自己評価	先進都市の事例調査など調査研究が十分とは言えず、鳥栖市の新エネルギーを推進する具体的な事業を示すには、もう少し時間が必要である。
	下半期への対応	引き続き先進都市や民間事業者等の事例研究を進めるとともに、地方自治体が活用できる新エネルギー関連補助金なども調査する。
下半期	取組実績	引き続き情報の収集に取り組んだ。
	自己評価	情報収集を行う中で、太陽光発電買い取り制度等の見直しが議論されるなど、国の政策も流動的であり、今後、鳥栖市にふさわしい再生可能エネルギーの普及啓発には時間を要する。
	目標値の達成状況	実施を検討する段階まで到達できなかった。
	次年度への対応	国の政策動向も注視しながら、さらに調査研究を行う。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

情報収集と情報発信に取り組んでもらいたい。

下半期

太陽光発電は様々な問題が山積しており、燃料電池等の導入も今後検討が必要と考える。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表⑦

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：資源回収奨励補助金事業] [目標値：資源回収団体数99団体]

○資源回収団体に対する資源物の回収費補助

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するためにごみの減量とリサイクルを進めるものです。具体的には、市に登録している資源回収団体が各家庭から出される古紙類などの回収した資源物の回収量に応じて補助を行います。

時期	項目	内 容																																							
上半期	取組実績	9月末現在で資源回収団体登録数は前年度より3団体減の90団体となった。また、4～8月の5か月で延べ233団体が資源回収奨励補助金の申請を行い、古紙類457,075kg(前年同期比11.0%減)古繊維類11,510kg(同30.2%減)が回収され、合計3,656,600円(同11.2%減)を補助した。 【資源回収団体による回収量及び奨励補助金の推移】																																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">古紙類</td> <td>1,334,499kg</td> <td>1,296,030kg</td> <td>1,253,406kg</td> <td>1,137,329kg</td> <td>1,134,121kg</td> </tr> <tr> <td>10,675,992円</td> <td>10,368,240円</td> <td>10,027,248円</td> <td>9,098,632円</td> <td>9,072,968円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">古繊維類</td> <td>40,877kg</td> <td>28,049kg</td> <td>28,497kg</td> <td>27,464kg</td> <td>31,386kg</td> </tr> <tr> <td>81,754円</td> <td>56,098円</td> <td>56,994円</td> <td>54,928円</td> <td>62,772円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合 計</td> <td>1,375,376kg</td> <td>1,324,079kg</td> <td>1,281,903kg</td> <td>1,164,793kg</td> <td>1,165,507kg</td> </tr> <tr> <td>10,757,746円</td> <td>10,424,338円</td> <td>10,084,242円</td> <td>9,153,560円</td> <td>9,135,740円</td> </tr> </tbody> </table>		H21	H22	H23	H24	H25	古紙類	1,334,499kg	1,296,030kg	1,253,406kg	1,137,329kg	1,134,121kg	10,675,992円	10,368,240円	10,027,248円	9,098,632円	9,072,968円	古繊維類	40,877kg	28,049kg	28,497kg	27,464kg	31,386kg	81,754円	56,098円	56,994円	54,928円	62,772円	合 計	1,375,376kg	1,324,079kg	1,281,903kg	1,164,793kg	1,165,507kg	10,757,746円	10,424,338円	10,084,242円	9,153,560円	9,135,740円
			H21	H22	H23	H24	H25																																		
		古紙類	1,334,499kg	1,296,030kg	1,253,406kg	1,137,329kg	1,134,121kg																																		
			10,675,992円	10,368,240円	10,027,248円	9,098,632円	9,072,968円																																		
古繊維類	40,877kg	28,049kg	28,497kg	27,464kg	31,386kg																																				
	81,754円	56,098円	56,994円	54,928円	62,772円																																				
合 計	1,375,376kg	1,324,079kg	1,281,903kg	1,164,793kg	1,165,507kg																																				
	10,757,746円	10,424,338円	10,084,242円	9,153,560円	9,135,740円																																				
自己評価	7～8月の天候不順が影響している面が考えられるが、上半期の回収量を見る限り、古紙類、古繊維類の回収量が昨年を大幅に下回った。																																								
下半期への対応	年間の回収量がどうなるか推移を見守るとともに、別ルートでの古紙類の回収状況を調べ、鳥栖市全体の古紙類の回収量を把握したうえで、必要に応じて対策を検討する。																																								
下半期	取組実績	4～12月の9か月で延べ416団体が資源回収奨励補助金の申請を行い、古紙類836,431kg(前年同期比7.0%減)古繊維類21,700kg(同21.7%減)が回収され、合計6,734,848円(同7.1%減)を補助した																																							
	自己評価	古紙回収業者や店頭回収、許可業者への直接持ち込みなどに聞き取りを行い、民間回収量を推計した。平成25年度実績で650トと前年度の2.6倍に増加しており、市の登録団体の回収量は落ち込んでいるが、鳥栖市全体の古紙類など資源ごみのリサイクルの推進は図られた。																																							
	目標値の達成状況	昨年度より登録団体数が減少し、目標値を達成できなかった。																																							
	次年度への対応																																								

所管部長(リープロ担当部長)の指示

上半期

民間の回収量の把握をお願いしたい。

下半期

市民に対して、民間の回収場所などの情報を含め、広く発信して頂きたい。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表⑧

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：コンテナ収集・美化活動推進奨励金事業] [目標値：交付団体世帯数 25,800 世帯]

○資源物コンテナ収集における必要な活動及び美化活動を実施する町区に対する奨励金の交付

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するためにごみの減量とリサイクルを進めるものです。具体的には、各町区で実施する資源物のコンテナ収集及び町内の美化活動に対してそれぞれの世帯数に応じて奨励金を交付します。

時期	項目	内 容					
上半期	取組実績	市内全 76 町区でコンテナ収集・美化活動に取り組み、合計 24,623 世帯分（前年度比 129 世帯増）に 5,909,520 円を奨励金として交付した。 【奨励金交付世帯数と交付額の推移】					
			H22	H23	H24	H25	H26
		交付数（世帯）	23,538	23,976	24,280	24,494	24,623
	交付額（円）	5,649,120	5,754,240	5,827,200	5,878,560	5,909,520	
	自己評価	全町区で取り組み、奨励金を交付していることから、コンテナ収集による資源物回収と地域の環境美化活動が市民に定着し、ごみ減量とリサイクルに一定の成果が上がっている。					
	下半期への対応	コンテナ収集で回収したものに、分別されていないものや回収できないものが混ざっているケースも見られ、各町区の区長あてにお願いの文書を出したが、分別の徹底を市民に呼びかけていく。					
下半期	取組実績	コンテナ収集での分別の徹底などを呼びかけるチラシを作成し、全世帯回覧を行った。					
	自己評価	町区のコンテナ収集は市民に定着している一方、不適切な出し方も一部見受けられ、引き続き分別徹底の協力を呼びかける。					
	目標値の達成状況	交付世帯数は目標値を下回っているが、すでに全町区で取り組まれており、目標は達成できた。					
	次年度への対応	予算の範囲内での奨励金交付となっており、来年度の交付世帯数の増加が見込まれる中、町区に対する奨励金の減額を検討する。					

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

今後も各町区と一体での取組をお願いしたい。

下半期

今後も、分別収集の徹底を図って頂きたい。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表⑨

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：環境学習、環境講座の開催事業] [目標値：年4回開催]

○一般市民を対象とした環境出前講座の実施

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するために、循環型社会への市民の意識改革を進める事業です。具体的には、一般市民を対象としたごみ減量・3R等についての環境出前講座を実施します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	町区への出前講座、うららトス養成講座、マンション管理者研修会でごみ減量や3R、鳥栖市の資源物収集等について説明を行ったほか、鳥栖・三養基西部リサイクルプラザで開催された「環境フェア」で講座を開催した。
	自己評価	年間4回開催の目標値に対して、すでに4回開催することができ、一定の成果は上がっている。
	下半期への対応	循環型社会の実現に向けた市民一人ひとりの意識改革と実践が不可欠で、今後も町区や団体に対して出前講座開催の呼びかけを行っていく。
下半期	取組実績	平成27年1月には弘堂国際学園の留学生を対象に延べ2回の環境講座を開催した。
	自己評価	市民の皆さんができるだけ環境問題に触れる機会を数多く提供することが大切で、昨年度以上に開催数を増やすことができ一定の成果が上がった。
	目標値の達成状況	年間4回の開催目標に対して、年間延べ6回開催し、目標を達成した。
	次年度への対応	講座内容をさらに研究するとともに、さまざまな機会で開催のPR等を図っていく。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

今後も積極的にお願いしたい。

下半期

地道な取り組みが結果をもたらすと考えます。